

- 中央砕石、一本使い可能な砕砂「カクテルサンド」提案、湿式砕砂に砕石粉を添加  
中央砕石(大阪府高槻市、山本和成社長)は2日、ワールド(大阪府茨木市、藤中昌則社長)で「砕砂一本使い生コン見学会」を開催した。大阪北摂地区等の生コン工場や大阪兵庫生コンクリート工業組合の技術担当者が参加し、中央砕石の湿式砕砂「カクテルサンド(CS)」を細骨材で100%使用した生コンの練り上がりを見学。Aロート試験、加圧ブリーディング試験を実施し、60分後のフレッシュ性状は良好で、ポンプ圧送性も良好であることを確認した。「CS」は湿式砕砂に乾式砕砂製造時の副産物である砕石粉を添加し微粒分量を $5\pm 2\%$ 前後に調整した新製品。「CS」を1本使いた生コンについてワールドは2月にJISを取得して標準化し、高強度コンクリートの大臣認定も取得済みである。
- 大分共同海運、沿海ガット船「新大共丸」新造、東京湾岸へ石灰石骨材輸送  
大分共同海運(大分県大分市、丸尾忠行社長)は3月18日、東京湾岸向けに新津久見鉱山(大分大平洋鉱業)の石灰石骨材を輸送する沿海ガット船「新大共丸」を竣工した。749トン級で載貨重量約2300トン。4月から東京湾岸向け輸送を開始した。九州～東京間を月10～12回航海し、湾岸向けの石灰石骨材、九州のセメント工場向けの建設発生土や高炉水砕スラグを運ぶ。社船の新造により同社が運航管理する船団は社船4隻、傭船8隻となり、このうち骨材輸送船は1隻増えて7隻体制(749トン級・699トン級計4隻、499トン級3隻)。「足元の骨材の荷動きは鈍く船舶の余剰感強いが、骨材輸送沿海船は老朽化が進んでおり計画的に建造しないと激減してしまう。今後の沖縄の基地建設工事や東京五輪特需での船不足を見据えて新造に踏み切った」(高島洋次常務取締役東京支店長)

- 栃木県砕石工業協同組合、生コン用骨材輸送健全化を図るため業界基準定め、適正積載へ  
栃木県砕石工業協同組合は16年度、生コン用骨材輸送の健全化を図るため組合員一丸となり積載問題に取り組む。「過積載防止対策の業界ルールを定め、パトロールを充実させて実効性を高めることで適正積載を徹底する」(組合関係者)。関連業界に積載量適正化への協力を呼びかけ、3月下旬から関東1都5県の生コン協組、購入者側の生コン工場、販売店、ダンプディーラー(骨材輸送・販売業者)への要請活動を開始。組合員各社は、適正化に伴う輸送費(運賃)アップ分を転嫁するため、10月1日からトン1000円以上値上げする姿勢を固めた模様だ。
- 鹿児島県全体で16年度の海砂採取枠108万 $m^3$ に、鹿児島県砂利協組連適正に事業推進  
産官で組織する「鹿児島県海砂採取対策委員会」は3月25日、16年度の県内本土地区の海砂採取予定数量(採取枠)を78万5千 $m^3$ とすることを決定した。15年度の予定数量に比べ、3万1千 $m^3$ 減少した。屋久島や奄美大島等の離島の採取予定数量は9千 $m^3$ 減り29万5千 $m^3$ 。県全体では4万 $m^3$ 減り合計108万 $m^3$ 。15年度4～2月累計の採取実績は県内の骨材需要の減少で59万6千 $m^3$ となり通期では1割以上の減少になる見込みである。